

読売新聞 きょう（5月4日）のイチ押し

1面・社会面 知床観光船沈没事故 安全運航の規定違反続々判明

北海道・知床半島沖の観光船沈没事故で、運航会社が、法律で作成が義務付けられた安全運航の規定に複数違反していました。乗客の家族らに配布した資料から判明しました。社長は安全管理の不備を認め、家族らに謝罪しました。

- ★ 規定では、▽船長は航行中、運航管理者に定点連絡する▽運航管理者は航行中、事務所にいる▽不在の場合は代理となる補助者を置く——などと定められていました。しかし、定点連絡はなく、航行中に運航管理者は事務所に不在で、代わりとなる補助者はいませんでした。
- ★ 配布資料の記述と社長が4月27日に行った記者会見時の説明には多くの矛盾がありました。資料には「運航管理者は社長である自分」とありますが、会見では「船長」と説明。資料には出航中止基準が記載されていましたが、会見では「基準はありません」と話していました。

2社面 有馬町の隣町でも「有馬温泉」と名乗ってOK?

日本最古の温泉とされる神戸・有馬温泉の名称を巡り、地元・有馬町の旅館協同組合と、同町に隣接する有野町の宿泊施設が法廷で争っています。

- ★ 宿泊施設は昨年12月に開業しました。ホームページやSNSで、有馬温泉旅館協同組合が商標登録している「有馬温泉」や「金泉」といった名称を、組合に無断で使い、PRしていました。
- ★ 組合側は施設の運営会社に是正を求めましたが、応じなかったため、大阪地裁に使用差し止めを求めて提訴しました。法廷闘争に発展した途端、施設側は名称を変更する考えを示しました。

他紙と比べて

沖縄県は15日、本土復帰から半世紀の節目を迎えます。沖縄を見つめてきた人たちの思いを語る連載が社会面で始まりました。初回はダンスボーカルグループ「DA PUNP」のリーダー・ISSAさんです。「基地と共存してきたがゆえに生まれたカルチャーや音楽、歴史がある」と生まれたコザの街への誇りを語ってくれました。関連の特別面では、沖縄の50年の歩みを詳報しています。